

令和7年度 府立田辺高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
【スクール・ミッション】 工業に関する専門学科、普通科を設置する高校として、主体的に社会の変化に対応できる確かな学力や専門的な知識・技能を身に付け、未来を切り拓くことができる人材を育成する。 【スクール・ポリシー】 - 探究学習やものづくりを通して、幅広い知識や専門的な技術を追究する力を育てます。 - 自分とは異なる価値観の人と交流することを通して、多様な考え方を尊重する力を育てます。 - 自分の興味や目標に基づいて、主体的に希望進路を見出し、実現する力を育てます。	- 規範意識等に関する取組について 生徒指導部を中心に、身だしなみ指導や遅刻の根絶等、基本的生活習慣の確立に向けた指導を重点的に取り組んだ。今後も、学校生活全体のあらゆる機会を通して、教職員の一致協力指導の下、粘り強い指導を行い、安心で安全な高校生活を送れるよう、規範意識の確立と授業規律の徹底に基づく教育環境を整備する必要がある。 - 進路指導・学習指導について 進路決定状況は、就職においては、本校の強みを生かし、今年度も内定率100%を達成することができた。進学においては、近年では、総合型選抜、学校推薦型選抜により早期に進路決定する生徒が増加し、高い目標を持ち続けて一般選抜まで粘り抜く生徒は減少傾向にある。学習指導については、日頃よりきめ細かな指導を心がけ、実践してきたが、意欲をなくす生徒も一部出てきており、中途退学及び転学者数の減少には繋がらなかった。今後も、より細やかな指導が求められる。 - 部活指導等本校への帰属意識向上 自動車部が高校生ものづくりコンテスト自動車整備部門で全国3位、電気研究部が高等学校ロボット相撲選手権で近畿大会3位となり全国大会に出場した。また、ウェイトリフティング部が近畿大会に出場するなど、多くの部が熱心に活動している。一方で、部活動加入率は思うように伸びていない。今後、様々な機会でも部活動の意義について理解させ、高校生活のさらなる充実を図りたい。 - 地域連携・広報等について 京田辺市と連携協力に関する協定を生かし、工業に関する専門学科と地元企業との連携事業を、工業科全体のものとして実施する中で、生徒の職業観の育成を図ることに大きな成果があった。広報活動では、在籍生徒主体の学校説明会を実施したり、中学校の進路学習会に参加したりするなど、本校の特色ある教育活動について正しく、広く理解してもらうための取組を継続して実施した。今後さらに魅力ある教育内容の広報活動を積極的に展開し、中学生に選ばれる学校づくりを進めていきたい。	「思いやりの心を育み、自ら考え行動し、未来に向かって挑戦する生徒を育成する。」ことを基本方針とし、以下の重点項目に取り組む。 - 思いやりの心と自主性の育成 生徒の多様な個性と能力を尊重し、自己肯定感を育む教育を推進する。学校行事や特別活動の充実、人権教育・道徳教育の実践を通して、他者を尊重し協力する態度を養うとともに、自ら考え行動する力を育む。さらに、基本的生活習慣を確立し、安心・安全な高校生活を送れる環境を整える。 - 学力向上とキャリア教育の充実 ICTを活用した個別最適な学びを推進し、生徒一人ひとりの学力向上を図る。探究的な学習を深め、主体的・対話的で深い学びを促進する。資格取得や進路指導を強化し、進学・就職の両面でのサポート体制を充実させ、生徒が夢を実現できるよう支援する。 - 学校生活の充実と生徒の満足度向上 放課後の有効活用を推進し、部活動の活性化やICTを活用した学びの促進を通じて生徒の主体的・協働的な学びを支援するとともに、資格取得指導やキャリア教育の充実を図り進路支援の充実を図る。さらに、スクールカウンセラーの活用や相談体制の充実を図り、生徒の心のケアに努め、安心して学校生活を送ることができる環境を整備することで、学校生活の充実と生徒の満足度向上を目指す。 - 地域と連携した教育の推進 地域と連携・協働し、地域創生に寄与する取組を推進する。「地域とともにある学校」としての存在感を高め、心身の健全な発達と帰属意識を醸造し、誇りの持てる高校生活を目指す。 - 学校の魅力発信 本校の特色ある魅力的な教育活動についての広報活動を積極的に展開し、正しく、広く理解していただくとともに、保護者、中学校、地域等への広報をより一層推進する。 - 組織的な教育活動 上記の項目を推進するため、各分掌・教科の連携を図り、全教職員が一体となる体制づくりを行い効果的かつ組織的な教育活動を実践する。

分掌 教科名	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
副 校 長	組織運営	生徒と向き合った生き生きとした教育活動が行える学校作りの推進	部長会議を中心に連絡・調整を密にした学校運営を進める。	A	B	部長会議を週1回基本実施にし、組織的な教育活動が実現できるよう綿密な連絡・調整に努め、学校全体で迅速な情報共有ができた。昨年度と同様に、ノー残業デーの設定等により、勤務時間の縮減に向けた啓発を行った。 地域との連携の推進および本校の特色ある教育活動を広報するうえで、担当分掌と検討を重ねながら、企業参加の発表会や学校説明会・HPの刷新を行い、田辺高校をアピールする機会の推進を行った。
			適切な勤務時間の管理を行い、総勤務時間の縮減に努める。	B		
		普通科・工業に関する専門学科の特色ある教育活動の推進と広報活動の充実	普通科・工業に関する専門学科の教育内容の更なる改善と充実に努め、地域や地元企業との連携を、より一層推進する。	B	B	
			本校の特色ある魅力的な教育活動について正しく広く理解していただくため、保護者、中学校、地域等への広報活動を更に充実させる。	B		
事 務 部	学校運営	企画、立案及び連絡調整	効果的な学校運営に不可欠な予算執行に係る企画、立案に積極的に関与しこれを実行する。	B		大変厳しい予算の中、昨年に引き続き学校行事も開催でき、授業を基本とする日々の学習活動に支障の無いよう適切な予算執行が出来た。 学校環境の整備については、工業棟のLED化、空調機の更新、屋外トイレの改修、体育館床の改修により学習環境の充実に努めた。 施設の安全点検については、定期的に巡回を実施し、安心・安全な、学習環境の充実にに向けた取組を行った。 衛生委員会の職場巡視も含めて実施できた。
	文書・情報管理	文書事務の効率化と情報管理の適正化	法令・規定に基づいた事務処理を行い、情報の公開、個人情報の保護を意識した情報管理を行う。	B		
	就学支援	充実した高校生活と希望進路達成に向けた支援	在学中の生徒・保護者への支援策の効果的な紹介	B		
	維持管理及び学校環境の整備	安心・安全、学習環境の充実に向けた取組	老朽化や緊急性を踏まえ効果の高い改善策の検討と実行	B	A	
			緊急事態発生時に柔軟な対応を行うことで生徒の安心・安全確保に努める。	A		
	財務及び会計	効率的な予算執行と適切な会計処理	費用対効果を意識した予算執行体制の確保	A	A	
適時に必要な予算を担保し、学校運営に携わる			B			
教 務 部	学習指導	組織的な指導による教科指導の一層の充実	授業・考査を適切に計画し円滑に実施する。	B	B	円滑な運営は実施できていたのではないかと。今後も調整や改善は図っていきたい。特に考査日程についてはクラスによって、毎日1時間しかないクラスと最低でも2時間はあるクラスなど差が大きく見られた。講座数等やむを得ない場合もあるが、見直しを図りたい。 公開研究授業に関しては、今年度期間内すべての授業を参観可能な形式をとった。教科主任会議にて今年
			公開研究授業を実施し、指導力の向上を図る。	B		
	情報管理	生徒情報の円滑な管理	校務システムを円滑に運営するとともに、個々の情報の適切な管理を図る。	A		

						度の総括と来年度の方向性を検討したい。
生徒指導部	生徒指導	基本的な生活習慣、学習態度を確立させる指導の充実	身だしなみの指導等において、全教職員が一致した指導を実施する。	B	B	身だしなみ指導については指導強化期間を設定し、授業開始時に一斉点検を実施した。遅刻指導についても他の分掌の先生方に協力してもらって行うことができた。その後の追跡指導で学期をまたいでしまったことが課題であった。 生徒指導が起こった時には学年部を中心に連携して指導を行った。 学校祭については生徒会が中心となり、様々な企画を考えてくれて文化祭、体育祭とも無事に日程通りに終了できた。支援学校との交流会や京都府警が企画した「チャリダース」という自転車啓発活動で最優秀賞を受賞するなど熱心に活動できた。 各学年人権学習は準備段階から外部との連携を行い、学年部の協力のもと実施することができた。
			生徒の実態を的確に把握し、授業規律を確立する。	B		
			各分掌・教科と連携し、生徒指導を実践していく。	B		
	特別活動	自主性・自発性の育成	田辺高校祭を成功させる。	B	B	
			部活動を活性化させる。	B		
			生徒会・ボランティア活動を活性化させる。	A		
人権学習	人権意識の高揚及び実践的態度の育成と人間力の充実	生徒の人権意識の向上と学習の深化・定着を図るため、視聴覚教材や外部講師による講演を通じた人権学習を実施する。	A	A		
進路指導部	進路指導	希望進路の実現	入学から卒業までを体系的に捉え、一貫した指導の下、学力向上に向けた取組を充実させることで希望進路の実現を図る。進学講習・長期休業中の講習を積極的に実施する。	B	B	学年段階に応じた、学習支援や進路行事を実施することで、生徒の進路意識の向上につなげることができた。進学講習や長期休業中の講習についても計画的に実施し、基礎学力の定着や進学希望者の学力向上に一定の成果が見られた。一方で、アドバンスコース以外の講習参加者、Classi平常講習参加者が少なく、スタンダードコースや工業科生徒の参加数を増やしていくことが必要である。 就職内定率98%を達成することができた(1月末時点)。しかし、面接時の受け答えやコミュニケーション面に課題を抱える生徒も見られ、基礎的な社会性を育成する指導の充実が必要である。 進路説明会を、適切な時期に実施し、生徒および保護者との共通理解を図ることができた。各学年で保護
			自己理解を深め、高校生段階での将来を見通した勤労観・職業観を養う効果的な指導を実践するとともに、企業と連携を密にし、就職指導の充実を図る。	A		
			昨年度に引き続き、就職率100%を目標とする。系統的な進路指導となるよう指導の内容については、就職模試や就職セミナー等を通して改善・整理していく。	B		
		保護者との連携	適切な時期に個別面談や進路説明会を実施することにより、進路決定に向けて、生徒及び保護者との共通理解を図る。 各学年1回以上の保護者説明会を実施する。	A		

						者説明会を実施し、進路情報の共有に一定の成果があったが、参加が難しい家庭への情報提供方法については、今後工夫していく必要がある(今年度はClassiで配信)。
教育推進部	広報活動	中高連携と広報活動の充実	本校の理解と関心を高め、入学希望者の増加を図るため、学校説明会や部活動体験等を計画的に実行する。特に工業に関する専門学科については、教育内容や特色を多面的に発信し、理解促進に努める。また、各種実施後にはアンケート等を活用して参加者の反応を分析し、次回以降の広報活動や中学校との連携強化に反映させる。	A	A	学校説明会では、生徒会や生徒スタッフ、部活動生徒が主体となって運営を行い、参加者に本校の雰囲気を感じてもらうことができた。アンケート結果からも概ね好評を得られた。一方で、来年度は学科変更も意識し、中学生の進路決定時期や広報効果を踏まえた実施日程や内容について検討が必要である。模擬授業・体験授業についても、生徒のニーズと教員の負担を考慮した、効果的な実施方法を模索していきたい。また、ホームページでの情報発信は継続できたが、SNS（YouTube）の活用については引き続き検討が必要である。 ICT教育推進会議の実施は少なかったが、LL教室のICT設備活用や教材・授業研究に関する意見交換を行うことができた。一方、研修会や講習会の案内は、十分に行えなかったため、来年度はより計画的に情報共有を進め、ICT活用の具体的方策を検討・共有していく必要がある。 新図書の選定・配架・購入を計画的に進めるとともに、図書館だよりの発行や図書展示を通じて、時期に応じた情報発信を行った。今後も電子書籍サブスクリプションや新聞データベースの活用方法を研究し、より利用しやすい図書館環境の整備に努めたい。 芸術鑑賞は、計画通り実施することができた。次年度の演目についても、複数業者と検討を行い、円滑に
			本校の広報機能を強化するため、まずは学校ホームページの内容と機能を充実させ、タイムリーかつ魅力的な情報発信を行う。あわせて公式YouTubeについても補完的な広報手段とし、生徒の活動や学校の魅力を校内外に広く発信する。	B		
	ICT教育	ICT教育の推進	学習用タブレット端末の効果的な活用を図るため、教材研究や授業研究における意見交流を促進するとともに、研修会や講習会等の情報共有・参加を適切にマネジメントし、教育活動の質の向上に努める。	C	B	
		ICT機器の整備と管理	タブレット端末等のICT機器を適切に管理する。	A		
	読書活動	生徒の図書館利用及び読書活動の推進	購入図書及び各種資料の適切な選定と配架を行い、生徒の興味関心や学びにつながる新着図書や推薦図書については、効果的な情報発信・広報につなげる。図書館が生徒のニーズに応じて機能する場となるよう、利用しやすい環境の整備を推進する。	A	A	
		視聴覚機器の整備	視聴覚機器を適切に管理する。	B		
	特別活動	芸術鑑賞の実施	生徒が芸術鑑賞に関心をもって主体的に参加できるよう、事前学習の取組内容を工夫する。	B	A	
			プログラム内容について、事前に関係業者と打ち合わせを十分に行い、生徒の興味・関心に寄り添った内容とする。	A		

			次年度の演目について、教育的効果を踏まえて検討し、適切な時期に決定する。	A			決定することができた。
保健部	健康安全教育の推進	健康な心身の育成	健康診断を全項目受検させ、特に心臓・尿検査について精密検査が必要な生徒を全員受診につなげる。	B	B	B	健康診断については、精密検査が必要な生徒を全員受診につなげることができなかった。 SCについては、生徒のみならず教員や保護者の不安軽減に向けた相談活動ができた。 今年度は保健室来室件数が増え、学年等と協力し対応した。 特別支援教育会議では、生徒の心身の健康上への配慮について適切に協議することができた。 校内美化については、クリーンキャンペーン等を中心に全校体制で取り組むことができた。今年度は春の強化期間においては学校説明会前に行うことで生徒・教員共に意識高く進めることができた。
			相談活動（カウンセリングを含む）や来室生徒への保健指導を適切に実施する。	A			
			特別支援教育会議を定期的開催し、特別支援教育の視点を活かした指導を推進する。	B			
		校内美化に対する啓発の促進	日常の清掃活動が円滑に行えるように掃除道具の整備・補充を行う。	B	B		
			クリーンキャンペーンや大掃除を定期的に実施する。	A			
			ゴミの分別推進、ポイ捨ての防止への啓発を促進する。	B			
工業部	工業教育の充実と発展	各学科、工業に関する専門学科の認知を高める広報。	教育内容の精査、より効果的な実施方法、より教育効果の高い指導体制を整えるため、4学科協働的な組織運営を目指す。	B	B	B	重点目標に掲げる3つの目標は前進できた1年であった。連携事業では初めての取り組みにも挑戦し、資格取得や各種大会においても優良成績を収める生徒達が増えてきた。 更なる活躍の場を広げていける環境として、課題となる不要物の多さを次年度の課題としたい。
			学校説明会をはじめ、おもしろたのしいモノづくりに触れられる場を整える。	A			
		各種資格・検定等の取得率向上	資格取得や検定の合格率を上げるための講習内容を充実すると共に、取得意欲を高める生徒案内を志す。	A	B		
			各種競技会の実施に向けた体制を整備する。	B			
		事業所や大学等における、実際の技術・研究に触れる機会の企画及び提供	事業所や大学等における、就業体験や見学会などを企画・立案・実施する。 事業所の技術者や大学の研究者による講演や実技指導等を計画的に実施する。	A			
		第1学年部	学習指導 進路指導	学習環境の整備を行い、学力を向上させる	各教科、教科担当者との連携を密に図り、情報を共有しそれに基づいた各生徒への対応と学習環境の整備を行い、学力向上を図る。		
自身の進路選択を明確にする取組を行う	進路指導部と連携をとりながら、自身の進路選択に係る目標の設定を行わせ、進路目標を明確にさせる。			B			
生徒指導	規律を守る自主・自立の態度を育成する		社会や学校の規則を遵守させるため一致した指導・対応を行う。	B	B		

	特別活動		委員会活動、学校行事等における役割、及び清掃活動などに積極的に参加させ、役割を果たさせる。	B		しなみ等の指導については、クラスや授業によってばらつきがあったため、学年スローガンを踏まえ、次年度以降も学年で統一した指導を続けていく必要がある。 配慮を必要とする生徒に対しては担任を中心に家庭への連絡を密に取ることができた。
			学年スローガン「田辺pride～田辺高校生として～」を意識させ、学年で統一した指導を行う。	B		
		配慮を要する生徒への支援	関係分掌との連携、要配慮生徒との家庭連絡を密に行う。	B		
第2学年部	学習指導 進路指導	学習環境の整備を行い、学力を向上させる 自身の進路選択を明確にする取り組みを行う	各教科、教科担当者との連携を図り、情報を共有し、それにもとづいた各生徒への対応と学習環境の整備を行い、学力向上を図る。	B	B	1. 学習指導 必要に応じて教科担当者会議を開催。個別対応ができた。学習意欲に欠ける生徒への適切なアプローチが取れなかった。教科担当者によってそうした生徒への対応に差があり、大きな課題となった。 2. 進路指導 昨年度よりも進路指導部と連携が取れた。学年部独自の取組として、基礎学力定着のための指導や小論文指導を SHR 等の時間に設定。大学進学希望者の模試受験が少なく、次年度の課題となった。 3. 生徒指導 生徒指導部と連携を取ってきたが、遅刻指導・身だしなみ指導などが第2学年最大の課題である。学校全体で取組む体制作りが急務である。 4. 配慮を要する生徒への支援 関連分掌とスムーズな連携が取れた。今後も対象となる生徒の支援を継続していきたい。
			進路指導部と連携をとりながら、自身の進路選択に係る目標の設定を行わせ、進路目標を明確にさせる。	B		
	生徒指導	規則を守る自主・自律の態度を育成する 自身の役割を認識し、役割を果たすことができる生徒を育成する	社会や学校の規則を遵守させるため一致した指導・対応を行う。	C	B	
			委員会活動、学校行事等における役割、及び清掃活動などに積極的に参加させ、役割を果たさせる。	B		
			学年スローガン「思いやり、自主性、夢への挑戦ー毎日楽しく、思い出いっぱい、入ってよかった田辺高校ー」を意識させ、学年で統一した指導をおこなう。	B		
	特別活動	配慮を要する生徒への支援	関係分掌との連携、要配慮生徒との家庭連絡を密に行う。	B		
	学習指導 進路指導	学習環境の整備を行い、学力を向上させる	各教科、教科担当者との連携を図り、情報を共有しそれに基づいた各生徒への対応と学習環境の整備を行い、学力向上を図る。	B	B	B

第3学年部		自身の進路希望を実現する取り組みを行う	進路指導部と連携をとりながら、丁寧に面談等を行い、全員の希望進路の実現を目指す。	B	A	ている生徒が複数いるため、サポートを継続して行う。 一方、進路決定後に生活が乱れる生徒も多かった。新たな環境に向けて規則正しい生活や、規範意識の向上については課題が残った。 3年間を通じ、学校行事や学校生活の中でさまざまなトラブルや指導などの出来事が起きたが、主体的に、状況に応じて行動する力は年々ついていったように感じる。 今年度においては大きな指導事象も少なく、一人ひとりが自覚と責任を持ち行動する場面が増え、学校行事や学年行事も積極的に参加する生徒が多く見られた。
	生徒指導 特別活動	規則を守る自主・自律の態度を育成する 自身の役割を認識し、役割を果たすことができる生徒を育成する	社会や学校の規則を遵守する意識を高めるため、一致した指導・対応を行い、成人年齢に伴う責任を自覚させる指導する。	B		
			委員会活動、学校行事、清掃活動等に積極的に参加させ、一人ひとりが役割を果たせるよう指導する。	A		
			学年スローガン「明日にでも社会に出れる人になろう～伝統の保持と新たな挑戦～」を掲げ、学年で統一した指導を目指す。	A		
		配慮を要する生徒への支援	関係分掌・教員との連携、要配慮生徒との家庭連絡を密に行う。	A		

評価 A：十分達成できている（目標以上の成果があった）

B：ほぼ達成できている（ほぼ目標どおりの成果があった）

C：達成できているとはいえない（成果は見られたが目標には達していない）

D：達成できていない（成果がなかった）

令和7度 府立田辺高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

教科名	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
国語	学習指導	基礎学力と学習習慣の定着に効果的な指導のあり方を模索する。	基礎的な国語力の充実を目指し、家庭学習を促すような課題を課す。家庭学習が結果につながるようフィードバックを行い、基礎的な国語力が確かなものになるように指導する。	B	B	B	提出物を出し切らせる指導については、ICTを利用した注意喚起や、一人一人への声掛けなどきめ細やかな指導ができている。 日々の授業の中で漢字や語彙力の必要性を説き、生徒に力をつけさせている。 伝統的な言語に関する体験に関しては、百人一首カルタ大会とその事前の取り組みができた。 日々の授業については、担当する教員間での連携を密にし、丁寧に打ち合わせができている。進学補講も日々の授業と関連づけられている。 ICTを活用した授業に関しては、多くの教員が活用したが、積極的な情報交換を意識して行うことができなかった。互いの授業でどのようにICT機器が使われているか、授業参観等を増やす必要がある。
			現代の国語・論理国語・文学国語の授業において単元の教材の中で語彙力を高められるような指導を行う。 伝統的な言語に関する文化に親しむ態度を育成するための取り組みを行う。	B			
	進路指導	進路指導との連携を意識した授業内容の構築・精選を行う。	長期的な視野に立った体系的な内容の授業構成を行う。確かな「書く力」を身につけさせるため、低学年から積極的に表現する力を養う。	B	B		
			授業と進学補講の内容に関連性を持たせる。	B			
	指導力向上	国語科教員間の連携を密にして知識や指導方法等を共有し、全体的な指導力の向上を図る。	授業を担当する教員によって授業内容の偏りが出ないよう、教材や学習課題等をこまめに共有し、授業の進度や定期考査についての打ち合わせを密にする。	B	B		
			ICTを活用した授業を実践し、生徒たちにどのような力が身についたか積極的に情報交換を行う。	C			
地歴公民	学習指導	ICT活用の推進、授業内容の充実を図り、生徒の学習意欲を引き出して基礎学力を定着させる。 探求活動の充実を図り、生徒の主体的に学習する態度の涵養し、地域理解と多面的な歴史観を身に付けさせる。	授業の中で意識的に問題提起を行い、生徒に考察させる状況を設定し、発表の機会を多くする等の工夫をする。また、課題を課して、提出することを習慣づけて、学習内容の定着を目指す。	B	B	B	〔学習指導〕 ICTの活用については、昨年度と比較して授業内でICTの利用を推進しようという意欲は高まっており、ICTを授業に取り入れる教員は増えている。昨年度の課題であった2年世界史探究（普通科スタンダードコース）については共通教材・共通定期考査を実施することができた。 〔進路指導〕 進学補講は希望者が少なく、個別対応になっている。次年度はその数を増加させたい。 〔指導力向上〕 2学期期末考査時には教科内研修も実施し、教科内共有、指導力向上を図ることができた。
			現代社会の諸問題について多面的に捉え、それに繋がる歴史的な背景を理解して主体的に考察して問題解決を図れるように指導を進める。 担当教員間の連携を密にして、共通教材の整理を進める。	B			
	進路指導	進路希望実現のための実践力養成を図り、進学補講の内容を充実させる。	C				
	指導力向上	充実した授業展開ができるように、教員間の連携を深め、指導力向上を図る。	B				

数 学	学習指導	各生徒の基礎・基本の学力を定着させ、幅広い層の生徒の学力向上を図る。	基礎的な演習を丁寧に行うことで、基礎学力定着を図る。	C	B	講座間での情報共有、担任と細やかな連絡を行いながら丁寧な授業展開ができた。進学補講や成績不振者補講を適宜行い、生徒それぞれの目標に合った指導ができた。一方で基礎学力の定着には課題が残った。 希望進路に合わせて授業展開を行い、多くの生徒は進路決定につながったが、進学に向けての意識を十分に付けさせるには至らなかった。進路指導の一端を担えるよう教科指導を行っていきたい。 年度当初の計画のもと、学科・コースの特色や生徒の実態に応じた授業展開ができた。定期的に教員間で情報共有することで自らの授業を振り返り改善に努めることができた。来年度はさらなる生徒への還元を図りたい。
			定期的な小テストの実施、課題を通して定着度の確認を行い、生徒の取り組みを促す。	B		
	進路指導	数学を通して、卒業後の展望をイメージする一端を担う。また、希望進路の実現に向け、実践的な学力を身につけられるような学習の展開を目指す。	社会生活における数学の活用例を提示するなど、数学と日常を結びつけて進学・就職に対する意識づけにつなげる。	C	C	
			進路実現に向けた実践力を身につけさせるために、授業で積極的に応用問題に取り組む時間を設ける。	C		
	指導力向上	学科・コース・講座の実態・目標に対して適切な授業が展開できる指導力の向上に努める。	計画的な授業展開、柔軟な指導が行えるよう、学科・コース・講座の特性を理解し生徒の実態に応じた学習を目指す。	B	B	
			授業を振り返り、見直すことで、課題の改善に努め、授業の質の向上、一層わかりやすい授業を目指す。	B		
理 科	学習指導	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する知識・技能を身につけさせる。 学習意欲を喚起し、科学的に探究しようとする力や態度を養う。	授業や実験を通して、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関連付けたりさせる。	B	B	実験授業は実施しているものの、時間的制約や生徒の理解度等の関係により、「仮説を立てて実験で検証する」という一連の流れを十分に達成できていない。今後はカリキュラムの再検討と、生徒の実態に即した実験内容の工夫が必要である。 ICTの活用は概ね進んでいるが、探究的な学習への発展には課題が残る。引き続きICTの効果的な活用方法を検討し、実践を重ねていく。 教科横断的な交流は、公開授業月間を活用して実施することができた。今後は公開授業月間に依存せず、日常的に気軽な交流を促進していきたい。
			観察・実験を行う際、目的を理解し、予想や仮説を立て、それを検証するための観察、実験を行わせる。	B		
			科学と日常生活や社会との関わりについて触れ、身の回りの事象から地球規模の環境までを視野に入れて、総合的に判断しようとする態度を養う。	B		
	進路指導	進路実現に向けた指導を行う。	進学補講の在り方として、進路実現に必要な個々に応じた対策・取り組みをサポートする。	A		
	指導力向上	わかる授業を目指す取り組みを進める。	授業や実験などでICTを利活用し、より探究的な活動ができる環境を作っていく。	B	B	
			生徒の興味・関心を高める授業の在り方について、同一科目担当者だけでなく、科目・教科をまたいで交流する。	A		
保 健 体 育	学習指導	体育においては運動実践を通じて、保健においては学習実践を通じて、心身ともに成長を促すよう指導する。	運動全般に積極的に参加する態度と習慣を身につけさせるとともに、基礎体力を向上させ集団の秩序を確立するための基本的な行動や習慣を身に付けさせる。	B	B	教科内での取り決めを見直し、生徒たちの主体性を高められるよう取り組んだ。 各年次に行う内容を教科内で共有し、見通しを持った指導を行えた。 授業の振り返りや、集団の秩序を確立する
			自己の運動実践について振り返りをさせ、生涯スポーツ及び今後の社会生活で必要となる知識の定着を図る。	C		

	指導力向上	ICTを積極的に活用した授業展開を工夫する。また、主体的・対話的で深い学びを目指した、確かな学力の定着を目指した授業をクリエイトする。	視聴覚教材やICT機器を積極的に活用し、生徒の視覚に訴えかける授業内容を展開するなど、学力の定着に向けた授業改善に取り組む。	B		B	ための基本的な行動や習慣を身につけさせる部分はまだ改善が必要。 生涯スポーツ及び今後の社会生活につながる、知識や集団の秩序、基本的な行動や習慣を身につけさせる必要がある。
			主体的・対話的で深い学びを目指した授業展開ができるように授業内容を工夫する。	B			
			生徒自らが自身のつまずきや課題に取り組むことができるような授業の展開をする。	B			
芸術	学習指導	芸術的な基礎能力と技術の向上及び学習習慣の確立を図る。	生徒の個性・能力に応じて表現力や基本技能を身につけさせ、様々な表現活動を通して意欲を引き出す。	B	B	B	それぞれの教科で意欲的に取り組む生徒がいる一方で、計画性がなく、遅刻や欠席が目立つ生徒がいる。 基本的な学習規律が確立できており、完成作品や評定平均からも意欲的に学習する生徒が昨年に比べ増えた。前述のような生徒も増えているが、一部の生徒は忘れ物や提出期限を守れない生徒もあり、授業規律の確保が今後の課題である。 教科の特性に合わせてiPadを使用しながら表現活動に取り組むことができた。 エアコンを使用する時期は美術／工芸のどちらかが各講座のHR教室と会議室を使用している。道具や作品の管理場所、机が小さいなど美術／工芸の授業には適しておらず、教室移動／使用教室の状況を鑑みた授業内容にせざるを得ない状況。夏場はエアコンが使える教室を美術／工芸の2科目分、固定で割り当てられれば、授業の内容をより深められると思っている。Wi-Fi設備についても同様に改善を求めたい。 夏休みを中心に芸術系大学に受験希望の生徒に向けて実技指導を行った。
			学習習慣を確立させる。(計画性を持つ・提出期限を守る・忘れ物や遅刻をしない・後片付けをする)	B			
			個々の生徒に応じて、放課後等を利用して補習を実施する。	B			
			授業の充実を図るため、施設・設備・機器・用具の整備に努める。	C			
	進路指導	個別の能力を一層引き出すために、生徒の演奏・作品発表の場を設けて、進路実現に向けた取り組みを図る。	発表会や校内展示、各種展覧会への出品を積極的に行う。そのための準備や意欲的な生徒のために放課後の指導を行う。	C	B		
			芸術・保育・教育関係などへの進学を希望する生徒に個別の進路指導を行う。	B			
	指導力向上	芸術4科の指導力の向上を図る。	指導内容や評価について芸術4科で連携を取り、ICTの活用を積極的に行いながら指導力の向上を図る。	B			
英語	学習指導	基礎学力の向上と主体的学習の確立を図る。	iPadを効果的に利用し、4技能の向上を図る。	B	B	B	生徒がiPadを使う場面を多く設定するようにした。グループワークや発表等、より効果的な利用方法を研究したい。 成績不振者に対する補習授業を実施し、意欲的に参加した者にとって一定の効果があった。 進路補講や英語検定の2次対策は、意欲的に参加した者にとって一定の効果があった。
			成績不振者に対する補習授業を充実させる。	A			
			ICTを通して、課題を課し学習習慣を身に付けるよう指導する。	C			
			提出物の期限内提出を徹底させる。	B			
	進路指導	進路実現に向けた指導を行う。	個々に応じた主体的な取り組みをサポートして、進路補講の充実を図る。	A	B		
			英語検定の受検を促し、合格に向けてサポートする。	B			

	指導力向上	ICTを効果的に利用し、「わかる授業」を目指す。	ICTを積極的に利用し、活用方法を研修、共有する。	B	B		iPad を積極的に利用する方向で皆が一致して進んでいる。評価についても評価材料を整え、より良い評価をしようと尽力した。
家庭	学習指導	基礎学力の向上と学習習慣の確立を図る。	わかる授業をめざし、教材の工夫や効果的な指導方法を検討する。	B	B	B	PPT や動画を取り入れて、わかる授業に一定の効果が得られたので、今後も効果的な指導のために教材を工夫していく。プリントは毎時間提出させ、どの程度記入しているか理解しているかを確認しながら授業を進めていった。 猛暑で調理実習の実施時期が限られた。施設が充実し、年間を通して実習できるよう要望したい。 共通教材で授業実践している科目は、担当者間での交流を深めて指導を進めることができた。 研究会ではICTを用いた実習が行われ授業を検討する上で参考になった。
			授業に集中できる学習環境をつくり、プリントや課題・作品の提出を粘り強く指導する。	B			
	進路指導	希望進路の実現に向けた指導を行う。	保育・調理・被服関係の進路を目指す生徒の指導を行う。	C	C		
	指導力向上	分かる授業づくりを目指し、研修を深める。	担当者間の交流を深め、指導方法の改善を図る。	B	B		
研究会に参加して教育実践に学ぶ。			A				
			ICTを活用した授業を検討し、実践する。	B			
情報	学習指導	情報社会を生きる上で必要となる基礎基本を習得させる。	個人情報の保護管理や知的財産権の順守、ネットマナー、情報モラル等の社会的な常識を習得させる。	B	B	B	座学と実習（文書処理・プレゼンテーション・プログラミング）を分け文書活用能力を向上させることはできた。座学においても基礎基本を、習得させることはできたが、応用や生徒の興味関心をひくような取り組みには至らなかった。また今年度検定試験を受検する生徒がなく、目標としていた積極的な受検に至らなかった。
			ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフト等を用いた実習を通して、パソコンの十分な活用能力を向上させる。	B			
	進路指導	自身の個性や能力を伸ばし、進路実現に向けた各種技術・能力の習得と向上を図る。	生徒の得意な分野を情報の科学によって表現・発信し、自身の個性や能力を客観的に理解させ更なる成長を促す。	B	B		
			情報に関する各種資格取得の呼びかけ。特に日本語ワープロ検定試験を積極的に受検させる。	C			
	指導力向上	「できた」と実感できる授業を展開する。	毎回の学習や実習を通して、「できた」ことが実感できるような授業を実践する。	B			
工学探究	学習指導	学科の特色を生かし個に応じた指導の推進 新学習指導要領の新観点に対応した指導の確立	生徒の能力や個に応じて補充・補習を行うことで、学科全体の学力の底上げを図る。	B	B	B	個々に応じた補充・補習を行うことで学力の底上げを図ることができたが、成績上位層の学力を伸ばしきることが、難しかった。 新学習指導要領に対応した評価方法について、教員の感覚と実際の成績と評価基準に対する差異ができてしまうことへの課題がある。 高大連携や、大学見学等の効果もあり、3年生の進路選択として、工学部だけではなく、理工学部や工学デザインといった、あらたな選択肢をとる生徒が増えてきてい
			学校内で連携を図りながら新学習指導要領の新観点に対応した生徒の指導方法や評価方法等を、授業を通して確立させる。	B			
	進路指導	理工系の新たな分野に対する進路開拓の取り組みの推進	デザイン系・材料系など、従来なじみのなかった分野と高大連携で関係を密にすることで、生徒の新たな進路への関心を広げる。	B	B		
			大学の入試に関する情報発信や進路説明会等を通じた情報収集をすることで、進路開拓や新たな入試形態等について、教科間で共有し生徒の進路指導に活かす。	B			

	指導力向上	ICTを活用した指導力向上の推進	iPadによる授業やICT機器の導入により、より効果的な指導方法を検討し、教科間の情報を共有することで指導力向上を図る。	B		る。それに合わせて教員もアンテナを張り巡らせ、柔軟に対応しなければならない。 iPadによる指導方法においては、科目によりばらつきはあるが、効果的に活用できている。ただ、実習室においてWi-Fiが不十分な場所があるので、今後検討が必要である。
機械技術	学習指導	基礎学力の向上と定着を図り、金属加工に関する知識・技術を習得させる。 各学年の特徴に沿った決め細やかな指導を行う。	学習習慣を確立させ基礎学力の向上を図ると共に、専門知識・技術を身に付けさせる。	B	B	今年度も外部との連携事業を多く実施することができた。生徒に対しても資格取得を推進し、技能検定に関しては受験者全員が合格することができた。また、高校生ものづくりコンテスト出場や技能検定旋盤作業2級の合格など、今まで以上に技術の向上を図ることができた。 しかし実習科目においての提出物の提出状況や授業規律確保など、生徒指導の部分では課題が残った。急な授業負担も機械科教員全員で助け合い、他学科にも協力をしてもらいながら対応する事ができた。 全学年の担任と、かなり密に連携をし、それぞれの生徒状況に合わせた指導や対応をすることができた。しかし、実習においてのレポート指導がやりきれていないので、今後の課題である。
			座学・実習はもとより、事業所等での工場見学・就業体験、ものづくりマイスターの招聘等を活用するなど、学習意欲を高めると共に、ものづくり・金属加工に対する興味・関心を引き出す。	B		
			今までと同じ授業内容ではなく、今現在の生徒達に合った指導法を実践する。特に製図の授業においては、空間把握能力が向上できるよう、3Dモデルを有効的に活用して分かりやすい授業を心がける。	A		
	進路指導	機械技術科の特色を活かし、希望進路の実現に向けた指導を粘り強く行う。	各種検定・資格の取得を積極的に取組ませると共に、事業所・専門校との連携を通して、就職・進学への意識・意欲を高める。	A		
指導力向上	一枚岩の指導を徹底する。 それぞれの教員の技術向上が図れるように授業改善・見学を行う。	担当者・担任との連携を密にし、そのクラスに沿った教科指導を実践、改善、発展させ教科指導の充実を図る。 それぞれの教員が持つ専門知識をフルに活用した実習・課題研究ができるよう授業の割り当てを考える。	B	B		
		機械技術科全教員が同じ指針を持って指導ができるよう 取り決め事項の改訂や新任教員の指導を行う。	B			
電気技術	学習指導	工業技術、特に電気技術に対する興味・関心を喚起し、意欲的に学習する態度を身につけさせる。	教育内容の精査、より効果的な実施方法、より教育効果の高い指導体制について具体的な検討を進める。	B	B	製作実習を行うことにより、電気に関する興味を持たせ、ものづくり等の競技会に積極的に参加した。予備実験をしながら、使用可能な機材を選定し、実習を滞りなくおこなうようにした。ICTを有効に活用する生徒が現れると同時に、ICTにより集中力を切らす生徒もいるので、授業でのICT使用頻度の割合を検討していく。 京都電気技術専門学院の協力により、一年次に資格の意義や将来への展望を話してもらい、生徒の学習意欲が沸いた。 少人数ながら、各種ものづくり競技に興味
			ICTを活用できるように、教員個々の能力を上げる方法を検討する。	C		
			産振で配備された機器の取り扱い方や実験モデルなど取り扱いを共有し、扱える教員を増やす。	B		
	進路指導	電気技術者としての進路を考えることができ、進路選択ができるようになる。	資格取得や検定の合格に向け、講習会等、補習・補講が効果的に行えるように設計・計画し、実施する。	B	B	
			各種競技会の実施に向けた体制を整備する。	A		
	指導力向上	実験実習装置などの教材研究を進める。外部講師による最新の技術を採用入れる。	事業所や大学等における、就業体験や見学会などを企画・立案・実施する。	A	A	
事業所の技術者や大学の研究者による講演や実技指導等を計画的に実施する。			A			

							を示し、近畿大会で入賞した。 京田辺市との連携や、関西電力送配電株式会社、京都電気技術専門学院の協力により、工場見学に行くことや熟練技術者を活用することで、実際の技術に触れるようにした。 今後は教員の研修を計画・実施する。
自動車	学習指導	学力向上を図る。	基本的な生活習慣を定着させ、授業に集中させる。	B	B	B	生徒の現状に応じた指導と評価基準について引き続き考察と改良を行う必要がある。 また、授業外での学習を習慣化させる指導が必要である。 高校生ものづくりコンテスト全国大会に2年連続出場し、今年度は敢闘賞を受賞した。 2年生全員が自動車整備事業者の就業体験を行った。例年は京田辺市連携で行い製造業者が中心であった。今後は就業体験を、自動車整備事業者と製造業者の生徒の志向に合わせてバランスよく体験できるように改善したい。 ICTを活用した授業内の視覚資料の提示・レポート指導が浸透してきているが、紙媒体とのバランスについては再考する必要がある。
			基礎学力を定着させ、専門的な知識を身につけさせるとともに、新評価と指導の一体化を構築する。	B			
		興味・関心を引き出す。	自動車に関する興味・関心が向上する授業を行う。	B			
	進路指導	個性や能力を伸ばす。	各種検定や資格取得について積極的に取り組ませる。また、各種競技会にむけた指導体制の充実を図る。	A	B		
			最新の技術や研究に触れるため、大学および企業との連携を推進する。	A			
			自動車関連の職業に興味・関心を持ち、進路目標として生徒が授業・課外活動に積極的に取り組む指導を行う。	B			
	指導力向上	わかりやすい授業を展開する。	ICTを活用した授業を積極的に行う。	B			

評価

A：十分達成できている（目標以上の成果があった）

B：ほぼ達成できている（ほぼ目標どおりの成果があった）

C：達成できているとはいえない（成果は見られたが目標には達していない）

D：達成できていない（成果がなかった）